

四国見聞録

香川県三豊市 粟島芸術家村 根付きつつある「アートの島」 人気集める作品群、巣立つ若手芸術家たち / 四国

毎日新聞 2017年8月31日 地方版



作品のコンセプトなどについて話し合う（左から）日比野克彦校長、森山泰地さん、菊池良太さん＝香川県三豊市詫間町粟島の旧粟島中学校で、山中尚登撮影

香川県西部の瀬戸内海に浮かぶ粟島（三豊市詫間町粟島）。2013年と16年の瀬戸内国際芸術祭では会場の一つになった。県と三豊市は、有望な若手芸術家を島に招き、創作活動を通じて島民との交流を図り、地域活性化を目指す「粟島芸術家村事業」を2013年度までの4年間行った。14年度からは“アートの島”を根付かせようと、市が単独事業で続けている。島から巣立った多くの若手芸術家は全国で活躍している。【山中尚登】

島伝統の盆踊りはbon-danceに



島民らと「bon-dance」の振り付けを練習する森山泰地さん（左端）たち＝香川県三豊市詫間町栗島の旧栗島中学校で、山中尚登撮影

栗島には1970年代、1000人を超える島民が生活していた。外国航路の船員を養成する旧栗島海員学校があり、船員家族も暮らしていた。しかし、学校の閉鎖などに伴い人口は年々減少。現在は270人余りで、高齢化も進んでいる。

状況を打開するため、栗島芸術家村事業が始まった。アーティストの日比野克彦さんが旧栗島中学校の校舎を使い、「日々の笑（しょう）学校」を開校。校長にも就任し、若手芸術家の育成や支援、さらに三豊市内の小学生たちにも芸術の楽しさを教えている。

瀬戸内国際芸術祭が開かれると、栗島の名前も徐々に知られるようになった。会期後も観光客が訪れ、芸術家が長期滞在するなど、昔のような活気と明るさが戻ったという。

今年度は2人の男性アーティスト、菊地良太さん（35）＝千葉県出身＝と、森山泰地さん（28）＝東京都出身＝が5月から8月末まで滞在。8月19～27日には2人の作品が旧栗島中学校などで展示され、独特な作風が来場者の人気を集めた。



発泡スチロールの浮きを使った森山泰地さんの彫刻作品「浦島太郎」 = 香川県三豊市詫間町栗島の旧栗島中学校で、山中尚登撮影

森山さんは、島の海岸に打ち上げられた冷蔵庫や空き缶、空き瓶などの漂流物を使った作品「龍神自動販売機」を披露。環境問題について考えてもらう願いも込めた。

菊地さんは、サワガニや養殖ダイなど島の名物や隠れ名所をデザインしたアロハシャツ作品「アワロハ」を展示。島民と協力して一緒に染め上げた。また、今では踊られなくなった島伝統の盆踊りをアレンジし、「bon-dance」として復活させ、26日夜に島民や来場者と一緒に踊って楽しんだ。



菊池良太さんがデザインしたアロハシャツ = 香川県三豊市詫間町栗島の新栗島中学校で、山中尚登撮影

2人は終了式で「あっという間の4カ月だった。作品以外に生活面でも、応援してもらって感謝している。いつか戻ってきたい」と別れの言葉を述べた。



教室をまるごと黒板にした菊池良太さんの作品「こくばんのきょうしつ」 = 香川県三豊市詫間町栗島の旧栗島中学校で、山中尚登撮影

日比野校長は「皆さんのお陰で2人は貴重な時を過ごすことができました。古里が一つ増えたようだ。芸術家村を中心に栗島の魅力を発信していくので、これからも協力をお願いします」と、島民に感謝の言葉を送り、授業を締めくくった。

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.